

# 疾病構造調査

令和4年10月3日（月）～10月7日（金）に社会医療センターで受診した外来患者と令和4年9月中に退院した患者の疾病構造

2023年3月

社会福祉法人大阪社会医療センター 社会医学研究会

[大阪社会医療センター社会医学研究会]

下村春美（医療福祉相談係長）、藤野博基（医療福祉相談係主任）、  
片山卓司（社会福祉士）、松本悠嗣（医事係統括）  
六車 一哉（付属病院長） 工藤新三（副院長兼内科部長）、溝川滋一（整形外科部長）  
本藤千鶴（看護部長）、習田祐倫子（訪問看護管理者）  
山崎 真貴子（薬局長）  
山本浩嗣（保健副主幹）  
高澤昭彦（事務局次長兼事務長）、塚本伸哉（総務課長）

## はじめに

前回平成 28 年度調査より 6 年が経過した。この 6 年間の間に当院は令和 2 年新病院へ移転し 2 年が経過した。電子カルテを導入し、外来診療も再診については予約制を導入した。また、社会的には令和元年より新型コロナウイルス感染症の発生、パンデミックがあり、当院も発熱患者の対応や入院受け入れなど影響を受けることとなった。

このような環境の中、前回調査との比較、検討を試みた。

## 調査対象者

1. 令和 4 年 10 月 3 日（月）～10 月 7 日（金）に受診した外来患者
2. 令和 4 年 9 月 1 日～9 月 30 日までの退院患者

## 調査方法

調査方法は、外来及び入院診療録並びに医事会計システムのデータを活用し、前回の調査項目に基づき調査した。

平成 28 年度の調査日は、診療科が一番多い金曜日（内科、外科、整形外科、精神科、皮膚科）としていたが、令和 4 年度は予約制になり診療がより専門的になったことや精神科、皮膚科の診療が午前中に同一日になかったため受診患者の一番多かった 10 月 3 日～10 月 7 日の 1 週間とした。

調査結果は平成 28 年度と同じ 3 科（内科・外科・整形外科）と他の 2 科（精神科・皮膚科）の全 5 科に分けて集計した。比較については主要 3 科は診療日が 5 日であったので 1/5、精神科、皮膚科は診療日が 2 日であったので 1/2 で検討した。

## 調査結果

### I. 外来・退院患者

令和4年10月3日～10月7日に受診した患者数は1093名で令和4年9月の退院患者数は36名であった。

#### 1. 患者数 (表 1-1,2)

表1-1 令和4年患者数 (令和4年10月3日(月)から10月7日(金)までの外来及び9月の退院患者数)

	内科		外科		整形外科		計	精神科		皮膚科		計	%
	人数	%	人数	%	人数	%		人数	%	人数	%		
外来	546	50.0%	43	3.9%	272	24.9%	861	166	15.2%	66	6.0%	1093	100%
退院	17	47.2%	10	27.8%	9	25.0%						36	100%

表1-2 平成28年患者数

	内科		外科		整形外科		計	精神科		皮膚科		計	%
	人数	%	人数	%	人数	%		人数	%	人数	%		
外来	92	32%	9	3%	102	35%	203	56	19%	30	10%	289	100%
退院	32	52%	7	11%	23	37%						62	100%

外来患者数は、平成28年度は内科・外科・整形外科で203人、令和4年度は一日平均172.2人で、15%の減となっている。精神科、皮膚科については平成28年度は86人であったのに対し、令和4年度は1日平均116人で35%増となっている。全5科では令和4年度も1日平均288.2人となり平成28年度と変わりなかった。

平成28年度の許可病床数は80床のままで平成24年7月から許可病床数80床のうち20床を休床とし、実稼働病床数を65床から55床に移行していた。令和4年度は一般病床50床、そのうちコロナ対応病床5床、休床保障病床10床であったため実稼働病床はコロナ対応病床を含め40床であった。そのため退院患者も36名と42%減となった。

### II. 外来患者の比較

#### 1. 性別 (表 2-1,2)

表2-1 令和4年 (外来)

性別	内科・外科 整形外科		精神科 皮膚科		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%
男	835	97%	215	93%	1,050	96%
女	26	3%	17	7%	43	4%
計	861	100%	232	100%	1093	100%

表2-2 平成28年 (外来)

性別	内科・外科 整形外科		精神科 皮膚科		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%
男	192	95%	83	97%	275	95%
女	11	5%	3	3%	14	5%
計	203	100%	86	100%	289	100%

外来受診患者総数に対して性別の比率は、男女共にほとんど変わりなかった。

## 2. 年齢構成（表 3-1,2 図 1）

年齢	内科・外科 整形外科	%	精神科 皮膚科	%	合計	%
20～29	8 (3)	1%	2 (1)	1%	10 (4)	1%
30～39	12	1.4%	7	3%	19	2%
40～49	51 (2)	6%	35 (4)	15%	86 (6)	8%
50～59	173 (4)	20%	67 (5)	29%	240 (9)	22%
60～69	262 (10)	30.3%	57 (3)	24.5%	319 (13)	29%
70～79	283 (3)	32.9%	56 (3)	24%	339 (6)	31%
80歳以上	72 (4)	8.3%	8 (1)	3.5%	80 (5)	7%
計	861 (26)	100%	232 (17)	100%	1093 (43)	100%

平均年齢 65.5歳      平均年齢 60.5歳      平均年齢 64.4歳  
 男 65.6歳          男 60.7歳          男 64.6歳  
 女 59.7歳          女 57.0歳          女 58.6歳

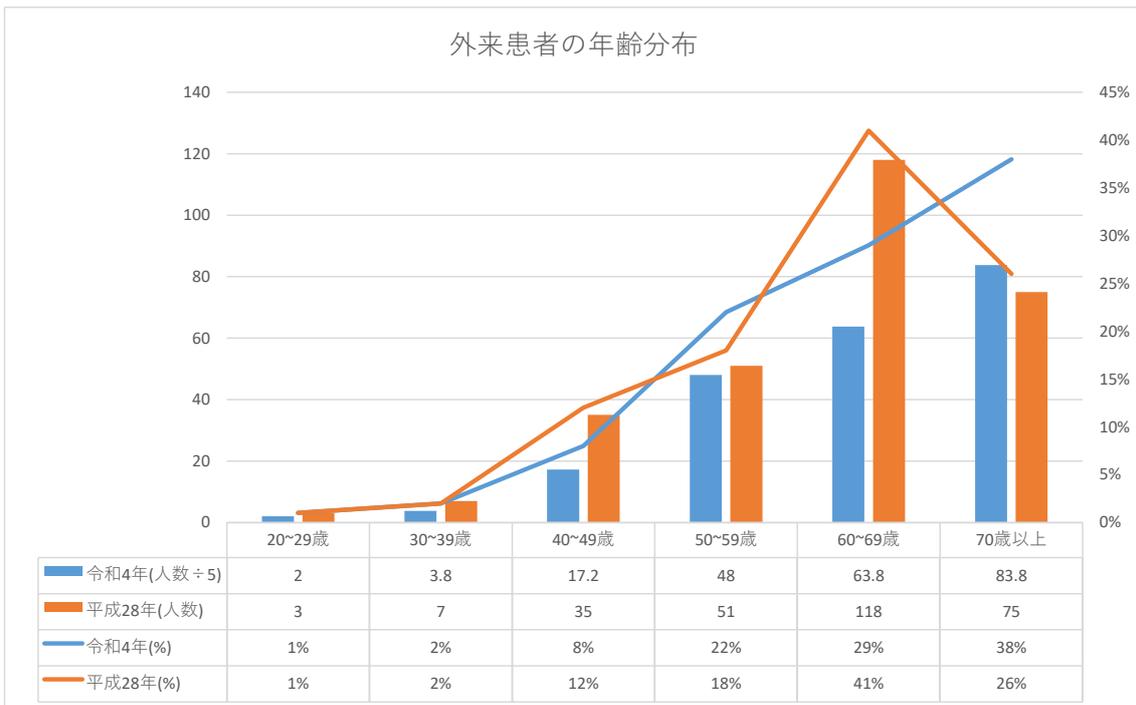
年齢	内科・外科 整形外科	%	精神科 皮膚科	%	合計	%
20～29	1	0.5%	2	2.3%	3	1%
30～39	3	1.5%	4	5%	7	2%
40～49	23 (1)	11%	12	14%	35 (1)	12%
50～59	35 (1)	17%	16 (1)	19%	51 (2)	18%
60～69	86 (3)	42%	32 (1)	37%	118 (4)	41%
70歳以上	55 (6)	27%	20 (1)	23%	75 (7)	26%
計	203 (11)	100%	86 (3)	100%	289 (14)	100%

平均年齢 62.8歳      平均年齢 60.2歳      平均年齢 61.2歳  
 男 62.6歳          男 60.1歳          男 61.4歳  
 女 66.9歳          女 62.6歳          女 65.4歳

平成 28 年度の年齢構成比は、60 歳代が一番多く 118 人（41%）で、次いで 70 歳以上が 75 人（26%）であった。令和 4 年度は 70 歳以上が一番多く 419 人（38%）で、60 歳代が 319 人（29%）で、平成 28 年度と逆転していた。

令和 4 年度は、80 歳以上が 80 人あり、そのうち 90 歳以上も 5 人あった。平均年齢も、64.4 歳と更なる高齢化を示している。女性については令和 4 年度の平均年齢は 58.6 歳で平成 28 年度の 65.4 歳より若年化している。

図 1



### 3. 居住地（表 4-1,2）

表4-1 令和4年（居住地）外来（ ）は女性

年齢	内科・外科 整形外科	%	精神科 皮膚科	%	合計	%
ホームレス	34 (1)	3.9%	7	3.0%	41 (1)	3.7%
あいりん地域	572 (12)	66.5%	147 (8)	63.4%	719 (20)	65.8%
西成区 あいりん以外	182 (8)	21.1%	51 (7)	22.0%	233 (15)	21.3%
大阪市 西成区以外	61 (2)	7.1%	26 (2)	11.2%	87 (4)	8.0%
大阪府 大阪市以外	11 (3)	1.3%	0	0%	11 (3)	1.0%
他府県	1	0.1%	1	0.4%	2	0.2%
計	861 (26)	100%	232 (17)	100%	1093 (43)	100%

表4-2 平成28年（居住地）外来（ ）は女性

年齢	内科・外科 整形外科	%	精神科 皮膚科	%	合計	%
ホームレス	16	7.9%	10	11.6%	26	9%
あいりん地域	86 (4)	42.3%	37 (1)	43.0%	123 (5)	43%
西成区 あいりん以外	80 (7)	39.4%	31 (2)	36.1%	111 (9)	38%
大阪市 西成区以外	19	9.4%	8	9.3%	27	9.4%
大阪府 大阪市以外	1	0.5%	0	0.0%	1	0.3%
他府県	1	0.5%	0	0.0%	1	0.3%
計	203 (11)	100%	86 (3)	100%	289 (14)	100%

居住地についての比較では、平成28年度はホームレスが26人（9%）、あいりん地域が123人（43%）、令和4年度はホームレス41人（3.7%）、あいりん地域719人（65.8%）でホームレスは減少しあいりん地域は増加した。あいりん以外の西成区については減少している。ホームレス、あいりん地域、あいりん地域以外の西成区の居住地に占める構成比は、令和4年度も平成28年度と変わらず90%を超えている。また、少数であるが大阪市内の他区、大阪府下からの受診者もあった。

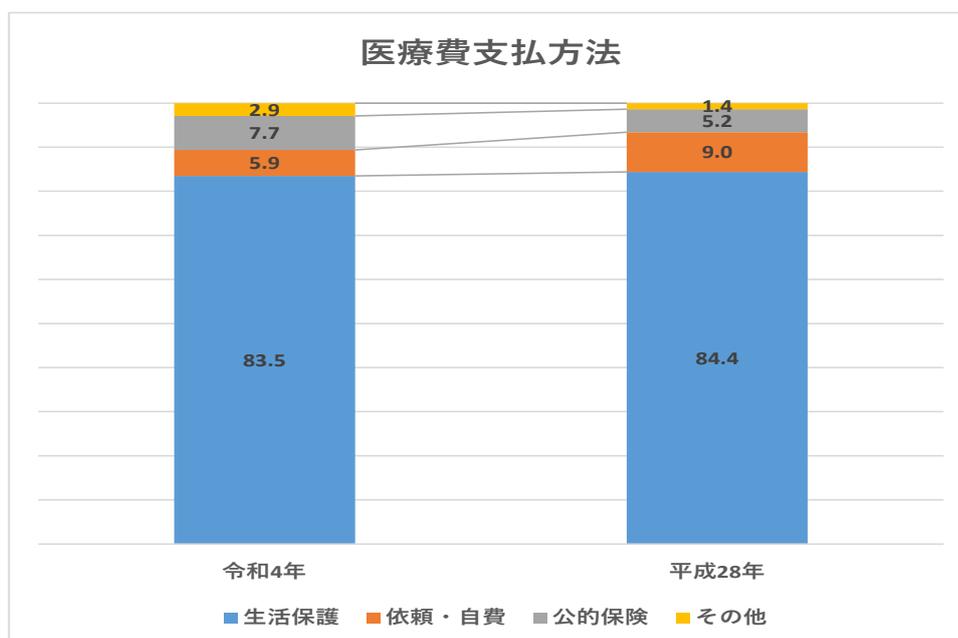
#### 4. 医療費支払い方法（表 5-1,2 図 2）

年齢	内科・外科 整形外科	%	精神科 皮膚科	%	合計	%
日雇	1	0.1%	0	0%	1	0.1%
協会本人	21	2.4%	3	1.3%	24	2.2%
組合本人	1	0.1%	0	0%	1	0.1%
国保	35	4.1%	2	0.9%	37	3.4%
後期高齢	18	2.1%	4	1.7%	22	2.0%
労災	2	0.2%	0	0%	2	0.2%
生活保護	729	84.7%	184	79%	913	83.5%
依頼※	53	6.2%	10	4.3%	63	5.8%
全額自費	1	0.1%	0	0%	1	0.1%
障害	0	0%	29	12.5%	29	2.6%
計	861	100%	232	100%	1093	100%

年齢	内科・外科 整形外科	%	精神科 皮膚科	%	合計	%
日雇	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
協会本人	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
組合本人	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
国保	5	2.5%	2	2.3%	7	2.4%
後期高齢	5	2.5%	3	3.5%	8	2.8%
労災	4	2.0%	0	0%	4	1.4%
生活保護	170	83.7%	74	86%	244	84.4%
依頼※	19	9.3%	7	8.1%	26	9.0%
全額自費	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
障害	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	203	100%	86	100%	289	100%

依頼※あいりん及びその周辺に居住する生計困難な者が、原則として西成区保健福祉センター・西成区保健福祉センター分館・西成労働福祉センター・その他の関係機関が発行する診療依頼書を持参し、当院を受診する方法

図 2



外来受診患者の総数に占める生活保護受給者の割合は、平成 28 年度が 244 人 (84.4%)、令和 4 年度で 913 人 (83.5%)、と横ばいであった。障害の 29 人は精神科、自立支援医療の患者であった。

依頼患者数は 26 人 (9%) から 1 日平均 12.6 人 (5.8%) と減少した。

保険別の比較では、令和 4 年度の日雇保険所持者は 1 人であった。また、協会けんぽ・組合保険・共済保険と公的な保険の所持者は変わらず少なかった。労災についても、前回調査 4 人 (1.4%) に対して 2 人 (0.2%) と更に減少した。

## 5. 外来患者の比較

### (1) 内科 (表 6-1, 2 表 7)

表6-1 令和4年疾病分類 (主病名)

順位	ICD-10	疾患名	人数	%
1		循環器の疾患	244	44.6%
	I10	高血圧(185)		
	I509	心不全(26)		
	I209	狭心症(22)		
	I48	心房細動(6) 等		
2		内分泌・栄養・代謝疾患	149	27.3%
	E14	糖尿病(136)		
	E785	高コレステロール血症(7)		
	E790	高尿酸血症(5) 等		
3		呼吸器系の疾患	87	16.0%
	J459	気管支喘息(27)		
	J449	慢性閉塞性肺疾患(26)		
	J40	気管支炎(13)		
	A162	肺結核(6) 等		
4		消化器系の疾患	55	10.1%
	K759	肝炎(13)		
	K590	便秘(10)		
	A09	下痢症(6)		
	K210	逆流性食道炎(5) 等		
5		その他	11	2.0%
	R51	頭痛(3)		
	R42	めまい(1)		
	D329	髄膜腫(1) 等		
計			546	100%

表6-2 平成28年疾病分類 (主病名)

順位	ICD-10	疾患名	人数	%
1		循環器の疾患	47	51.1%
	I10	高血圧(45)		
	I693	陳旧性心筋梗塞(1)		
	I341	僧帽弁逸脱症(1)		
2		内分泌・栄養・代謝疾患	17	18.4%
	E14	糖尿病(15)		
	E785	高脂血症(1)		
	E059	甲状腺機能亢進症(1)		
3		呼吸器系の疾患	15	16.3%
	J459	気管支喘息(4)		
	J40	気管支炎(1)		
	J449 J00	COPD(2) 感冒(3)		
	A162 C349	肺結核(1) 肺癌(4)		
4		消化器系の疾患	10	10.9%
	B182 C220	慢性C型肝炎(3) 肝癌(1)		
	N189 K259	慢性腎不全(1) 胃潰瘍(1)		
	K210	逆流性食道炎(4)		
5		その他	3	3.3%
	R42	めまい(2)		
	N189	慢性腎不全(1)		
計			92	100%

令和4年度の内科の疾病分類としては、循環器系の疾患が44.6%と多く、内分泌・栄養・代謝疾患が27.3%、呼吸器系の疾患16.0%で、平成28年度より内分泌・栄養・代謝疾患の割合が増加した。

患者数は令和4年度は1日平均約109人(18.5%増)であった。

表7 令和4年調査 内科受診患者の総疾患2178疾患の中で多かった疾患

順位	ICD-10	疾患名	人数	%	順位	ICD-10	疾患名	人数	%
1	I10	高血圧	410	18.8%	6	K590	便秘症	127	5.9%
2	E785	高コレステロール血症	200	9.2%	7	K297	胃炎	114	5.2%
3	K210	逆流性食道炎	198	9.1%	8	G470	不眠症	83	3.8%
4	E14	糖尿病	163	7.4%	9	R51	頭痛	69	3.2%
5	E790	高尿酸血症	128	5.9%	10	J40	気管支炎	46	2.1%

表7の疾患の中で最も多かったのは、高血圧症410人(18.8%)で、次いで高コレステロール血症200人(9.2%)、逆流性食道炎198人(9.1%)であった。内科受診患者546名の内科的総疾患数は2,178疾患で、一人あたりの疾患数は3.98疾患であった。

(2) 外科 (表 8-1,2 表 9)

表8-1 令和4年疾病分類 (主病名)

順位	ICD-10	疾患名	人数	%
1		その他	22	51.1%
	K409	鼠径ヘルニア(4)		
	I841	内痔核(5)		
	T140	切創(2) 他		
2		新生物	15	34.9%
	C20	直腸癌(8)		
	C169	胃癌(5)		
	C509	乳頭部癌(2)		
3		皮膚及び皮下組織疾患	6	14.0%
	L720	粉瘤(1)		
	L720	アテローム(1)		
	L984	皮膚潰瘍(1) 他		
計			43	100%

表8-2 平成28年疾病分類 (主病名)

順位	ICD-10	疾患名	人数	%
1		その他	4	44.5%
	K409	鼠径ヘルニア(2)		
	I841	内痔核(1)		
	T140	切創(1)		
2		新生物	3	33.3%
	C186	下行結腸癌		
	C187	S状結腸癌		
	C509	乳癌再発		
3		皮膚及び皮下組織疾患	2	22.2%
	L039	蜂窩織炎(1)		
	L720	臀部粉瘤(1)		
計			9	100%

令和4年度の外科の疾病分類としては、新生物(直腸、胃、乳頭部)が15人(34.9%)で最も多く、次いで内痔核5人(11.6%)であった。

令和4年度の1日平均患者数は8.6人(4.6%減)であった。

表9 令和4年調査 外科受診患者の総疾患186疾患の中で多かった疾患

順位	ICD-10	疾患名	人数	%	順位	ICD-10	疾患名	人数	%
1	C20	直腸癌	11	5.9%	6	C169	胃癌	4	2.1%
2	K409	鼠径ヘルニア	8	4.3%	7	D649	貧血	4	2.1%
3	I841	内痔核	6	3.2%	8	L089	表在性皮膚感染症	4	2.1%
4	K210	逆流性食道炎	4	2.1%	9	A09	下痢症	4	2.1%
5	K590	便秘症	4	2.1%	10	K297	胃炎	4	2.1%

表9の疾患の中で最も多かったのは直腸癌11人(5.9%)、次いで鼠径ヘルニア8人(4.3%)内痔核6人(3.2%)となっている。外科受診患者43名の総疾患数は186疾患で、一人当たりの疾患数は4.3疾患であった。

(3) 整形外科 (表 10-1,2 表 11)

表10-1 令和4年疾病分類 (主病名)

順位	ICD-10	疾患名	人数	%
1		骨・関節疾患	189	69.5%
	M4786	変形性関節症(腰膝股)(127)		
	M2555	両股関節痛(38)		
	M1099	痛風(4)		
	M1991	肩関節症(3) 他		
2		脊椎・脊髄疾患	30	11.0%
	M4782	頸椎症(5)		
	M5456	腰痛(20)		
	M4806	腰部脊柱管狭窄症(1) 他		
3		損傷・中毒・外因の影響	7	2.6%
	T1420	骨折(4)		
	T143	捻挫(2)		
	L984	潰瘍(1)		
4		その他	46	16.9%
	G64	末梢神経障害性疼痛(20)		
	R522	慢性疼痛(26)		
計			272	100%

表10-2 平成28年疾病分類 (主病名)

順位	ICD-10	疾患名	人数	%
1		骨・関節疾患	59	57.9%
	M4786	変形性関節症(腰膝股)(35)		
	M2459他	関節拘縮 関節炎 痛風		
	M8785他	骨頭壊死 腱鞘炎		
	M754他	肩インピンジメント肘管症候群 他		
2		脊椎・脊髄疾患	24	23.5%
	M4292他	頸椎骨軟骨症 頸腕症		
	M4806他	腰部脊柱管狭窄症 他		
	M512他	根性腰痛 腰椎ヘルニア		
3		損傷・中毒・外因の影響	19	18.6%
	T1420	骨折(9)		
	T140	挫傷(打撲)		
	T143他	脱臼 捻挫		
	S460他	腱板断裂 他		
計			102	100%

令和4年度の整形外科の疾病分類としては、骨・関節疾患が69.5%、その他が16.9%、脊椎・脊髄疾患が11.0%であった。疾患別では、変形性関節症(膝・腰・肘・足・頸部)が127人(46.7%)で最も多く、次いで両股関節痛38人(15.0%)末梢神経障害性疼痛が20人(7.9%)と続いている。

令和4年度の1日平均患者数は54.4人(46.6%減)であった。平成28年度と比較すると骨・関節疾患の割合が増加し、損傷・中毒・外因の影響が減少し高齢化が窺われた。

表11 令和4年調査 整形外科受診患者の総疾患1015疾患の中で多かった疾患

順位	ICD-10	疾患名	人数	%	順位	ICD-10	疾患名	人数	%
1	M4786	変形性腰椎症	113	11.1%	6	M5456	腰痛症	59	5.8%
2	R522	慢性疼痛	84	8.3%	7	R522	末梢神経障害	46	4.5%
3	M2555	両股関節痛	81	8.0%	8	M2555	両足関節痛	41	4.0%
4	M197	変形性膝関節症	73	7.2%	9	M4806	腰部脊柱管狭窄症	27	2.7%
5	G64	末梢神経障害性疼痛	68	6.7%	10	G64	両膝関節痛	27	2.7%

表11の総疾患数で最も多かったのは、変形性腰椎症113人(11.1%)で次いで慢性疼痛84人(8.3%)、両股関節痛81人(8.0%)となっている。整形外科受診者272名の総疾患数は1015疾患で、一人あたりの疾患数は3.7疾患であった。

#### (4) 精神科 (表 12-1,2,3,4)

表12-1 令和4年疾病分類 (主病名)

順位	ICD-10	疾患名	人数	%
1	G470	不眠症	60	36.2%
2	F489	神経症	27	16.3%
3	F329	うつ	25	15.1%
4	F209	統合失調症	19	11.4%
5	F155	覚醒剤精神病	17	10.2%
6	F102	アルコール依存症	4	2.4%
7	F319	躁うつ病	4	2.4%
8	G409	てんかん	2	1.2%
その他	F410他	パニック障害 他	8	4.8%
計			166	100%

表12-2 年齢別疾病分類 ( )内は女性

疾患名 年齢	不眠症	神経症	うつ	統合 失調症	覚醒剤 精神病	てんかん アルコール依存症	その他	合計
20~29	1 (1)	0	0	0	0	0	0	1 (1)
30~39	3	0	1	2	0	0	0	6
40~49	10 (2)	5 (1)	6	4	0	0	1	26 (3)
50~59	24 (2)	8	6 (1)	5 (1)	9	3	4 (1)	59 (5)
60~69	15	5 (1)	5	5 (1)	8	1	4	43 (2)
70歳以上	7	9	7	3 (2)	0	2	3	31 (2)
計	60	27	25	19	17	6	12	166 (13)

表12-3 平成28年疾病分類 (主病名)

順位	ICD-10	疾患名	人数	%
1	F489	神経症	29	51.8%
2	F155	覚醒剤精神病	9	16.1%
3	F209	統合失調症	7	12.5%
4	F329	うつ	3	5.3%
5	F102	アルコール依存症	3	5.3%
6	G470	不眠症	2	3.6%
7	G409	てんかん	2	3.6%
8	F229	幻想妄想状態	1	1.8%
計			56	100%

表12-4 年齢別疾病分類 ( )内は女性

疾患名 年齢	神経症	覚醒剤 精神病	統合 失調症	うつ	不眠症	てんかん アルコール依存症 幻想妄想状態	合計
20~29	2	0	0	0	0	0	2
30~39	1	0	2	0	0	1	4
40~49	5	2	0	1	0	3	11
50~59	7 (1)	1	2	1	0	1	12 (1)
60~69	10	6 (1)	1	1	1	1	20 (1)
70歳以上	4	0	2	0	1	0	7
計	29 (1)	9 (1)	7	3	2	6	56 (2)

精神科の疾病分類としては、不眠症 60 人 (36.2%) が最も多く、次いで神経症 27 人 (16.3%)、うつ 25 人 (15.1%) と続いている。

不眠症を年齢別に見ると、20~40 歳代が 14 人 (23.3%) に対して、50~70 歳以上の合計は 46 人 (76.7%) と高齢化するほど増加している。

神経症 27 人については、70 歳以上が 9 人 (33.3%) と多くなっている。

平成 28 年度に多かった覚醒剤精神病やアルコール依存症は減少した。

精神科受診患者の総疾患数は 439 疾患で、一人あたりの疾患数は 2.6 疾患であった。令和 4 年度の 1 日平均患者数は 83 人 (48.2.% 増) であった。

(5) 皮膚科 (表 13-1,2)

表13-1 令和4年疾病分類 (主病名)

順位	I C D-10	疾患名	人数	%
1	L029	皮脂欠乏性湿疹	25	37.9%
2	B359	白癬	17	25.8%
3	L299	皮膚掻痒症	5	7.6%
4	L309	皮膚炎	4	6.0%
5	B07	尋常性疣贅	2	3.0%
5	L089	皮膚感染症	2	3.0%
6	D361他	神経線維腫 他	11	16.7%
計			66	100%

表13-2 平成28年疾病分類 (主病名)

順位	I C D-10	疾患名	人数	%
1	L029	皮脂欠乏性湿疹	13	43.4%
2	L309	皮膚炎	10	33.3%
3	B359	白癬	3	10.0%
4	B086	疥癬	2	6.7%
5	A539	梅毒	1	3.3%
6	L084	胼胝	1	3.3%
計			30	100%

皮膚科の疾病分類としては、令和4年度は皮脂欠乏性湿疹が25人(37.9%)次いで白癬が17人(25.8%)と上位を占めた。皮脂欠乏性湿疹については平成28年度も43.4%と最も多かった。

皮膚科受診患者の総疾患数は223疾患で、一人あたりの疾患数は3.37疾患であった。令和4年度の1日平均患者数は33人(10%増)であった。

Ⅲ. 退院患者の比較

1. 性別 (表 14-1,2)

表14-1 令和4年 (退院)

性別	人数	%
男	35	97%
女	1	3%
計	36	100%

表14-2 平成28年 (退院)

性別	人数	%
男	62	100%
女	0	0%
計	62	100%

新病院になり女性の入院が可能となったが1名のみの入院であった。

2. 年齢構成 (表 15-1,2 図 3)

表15-1 令和4年 (退院)

年齢	人数	%
20~29	0	0%
30~39	1	2.8%
40~49	1	2.8%
50~59	6	16.7%
60~69	5	13.9%
70~79	19	52.7%
80歳以上	4	11.1%
計	36	100%

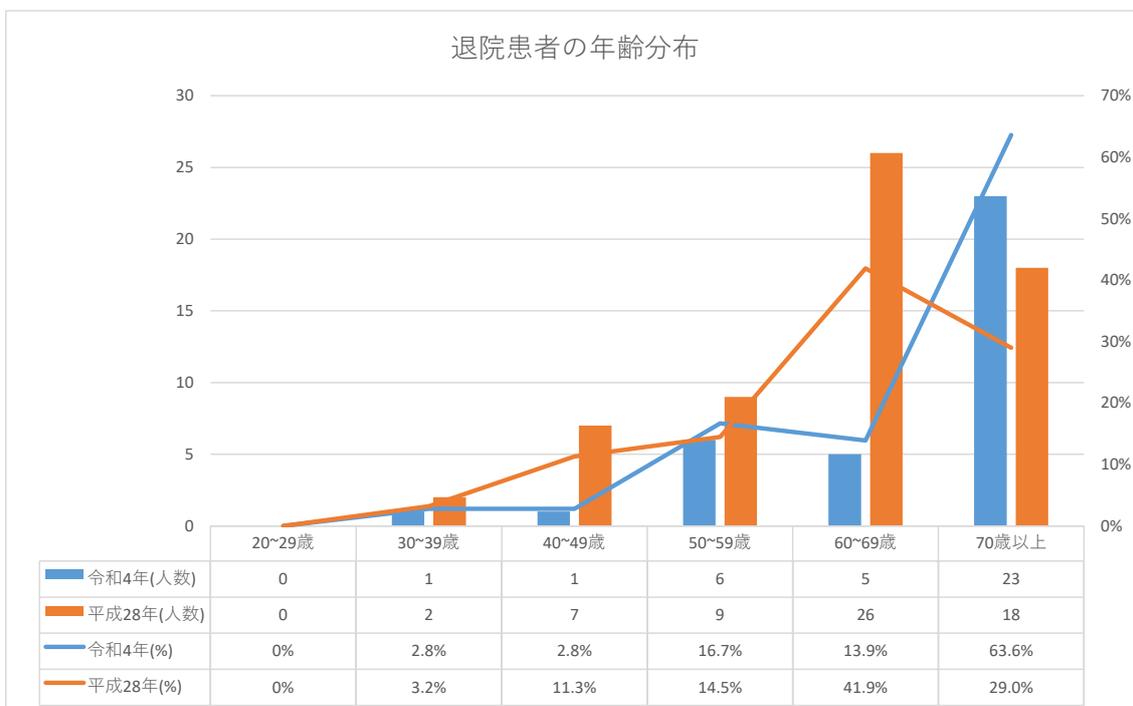
表15-2 平成28年 (退院)

年齢	人数	%
20~29	0	0%
30~39	2	3.2%
40~49	7	11.3%
50~59	9	14.5%
60~69	26	41.9%
70歳以上	18	29.0%
計	62	100%

平成 28 年度は退院患者 62 人に対して 60 歳代及び 70 歳以上の合計は 71%であったのに対し令和 4 年度の退院患者 36 人については、77.7%を占め、70 歳代以上のみでも 63.8%と高齢化が進行した。

退院患者の平均年齢は平成 28 年度 62.4 歳であったのに対し令和 4 年度は 68.7 歳であった。

図 3



### 3. 居住地（表 16-1,2）

表16-1 令和4年（退院）

住所	人数	%
ホームレス	1	2.8%
あいりん地域	22	61.1%
西成区 あいりん以外	10	27.8%
大阪市 西成区以外	3	8.3%
大阪府 大阪市以外	0	0%
他府県	0	0%
合計	36	100%

表16-2 平成28年（退院）

住所	人数	%
ホームレス	7	11.3%
あいりん地域	20	32.3%
西成区 あいりん以外	31	50.0%
大阪市 西成区以外	3	4.8%
大阪府 大阪市以外	0	0%
他府県	1	1.6%
合計	62	100%

令和4年度退院患者36人の退院後の居住地については、あいりん地域が22人、西成区10人と西成以外の他区の患者3人で生活保護受給者他は自宅及び寮に帰った。他区の患者3名のうち2名は新型コロナウイルス感染症で大阪府入院フォローアップセンターからの入院であった。ホームレスの1人については、肺がんで死亡退院となった。平成28年度に比べあいりん地域および西成区の居住者は88.9%で6.6%増加した。

### 4. 医療費支払い方法（表 17-1,2）

表17-1 令和4年（退院）

区分	人数	%
生活保護	28	77.8%
労災	1	2.8%
国保(本人)	5	13.9%
後期高齢	2	5.5%
計	36	100%

表17-2 平成28年（退院）

区分	人数	%
生活保護	57	91.9%
労災	1	1.6%
国保(本人)	3	4.8%
後期高齢	1	1.6%
計	62	100%

令和4年度の退院患者全体に占める生活保護の比率は平成28年度に比べ14.1%減少し保険を所持している患者が13%増加した。

5. 入院期間（表 18-1,2）

表18-1 令和4年（退院）

入院期間	人数	%
1ヵ月未満	30	83.3%
1ヵ月～2か月未満	4	11.1%
2ヵ月～3か月未満	2	5.6%
計	36	100%

表18-2 平成28年（退院）

入院期間	人数	%
1ヵ月未満	52	83.9%
1ヵ月～2か月未満	9	14.5%
2ヵ月～3か月未満	0	0%
3ヵ月～4か月未満	1	1.6%
計	62	100%

入院期間については、令和4年度、平成28年度とも1ヶ月未満が約83%と変わりなかった。令和4年度は3か月を超えての退院はなかった。また、令和4年度9月の平均在院日数20.0日で平成28年度9月の平均在院日数19.8日とほとんど変わりなかった。

6. 退院事由（表 19-1,2）

表19-1 令和4年（退院）

退院事由	人数	%
治癒	0	0%
軽快	30	83.3%
死亡	3	8.3%
転医	2	5.6%
その他	1	2.8%
計	36	100%

表19-2 平成28年（退院）

区分	人数	%
治癒	0	0%
軽快	62	100%
死亡	0	0%
転医	0	0%
その他	0	0%
計	62	100%

令和4年度の死亡退院患者3名の病名は2名が肺がんで1名は新型コロナウイルス感染症であった。

（その他退院とは、自己または事故退院である。）

## 7. 退院患者の比較

### (1) 内科 (表 20-1,2)

表20-1 令和4年疾病分類

順位	ICD-10	疾患名	人数	%
1		呼吸器系の疾患	14	82.3%
	C349	肺癌(7)		
	B342	COVID-19(6)		
	G473	睡眠時無呼吸症候群(1)		
2		内分泌・栄養・代謝疾患	2	11.8%
	E876	低カリウム血症(1)		
	K590	糖尿病(1)		
3		新生物	1	5.9%
	D487	頸部腫瘍(1)		
計			17	100%

表20-2 平成28年疾病分類

順位	ICD-10	疾患名	人数	%
1		呼吸器系の疾患	22	68.8%
	C349	肺癌(5) 肺癌疑(3)		
	A162他	肺結核(1) 肺炎(4)		
	J852他	呼吸不全(2) 気管支炎(1)		
	R091他	胸膜炎(1) 血痰(2) 他		
2		内分泌・栄養・代謝疾患	6	18.8%
	K590	糖尿病(6)		
3		消化器系の疾患	2	6.2%
	N289	腎機能障害(1)		
	K635	便秘症(1)		
4		循環器系の疾患	2	6.2%
	I509	心不全(2)		
計			32	100%

令和4年度の退院患者の疾病分類としては、平成28年度と同様に呼吸器の疾患が多かった。中でも令和元年から発生した新型コロナウイルス感染症が6名と内科疾患患者の35.3%を占めた。

### (2) 外科 (表 21-1,2)

表21-1 令和4年疾病分類

順位	ICD-10	疾患名	人数	%
1		新生物	6	60.0%
	C189	大腸癌(3)		
	C169	胃癌(2)		
	C159	食道癌(1)		
2		その他	4	40.0%
	K802	胆石(1)		
	K567	イレウス(1)		
	K409	鼠径ヘルニア(1)		
	L039	蜂窩織炎(1)		
計			10	100%

表21-2 平成28年疾病分類

順位	ICD-10	疾患名	人数	%
1		新生物	4	57.1%
	C20	直腸癌(3)		
	C119	上咽頭癌(1)		
2		その他	3	42.9%
	K567	イレウス(1)		
	K409	鼠径ヘルニア(1)		
	K439	臍ヘルニア(1)		
計			7	100%

外科については、疾病内容や比率についても、双方とも大きな変化はなかった。

(3) 整形外科 (表 22-1,2)

表22-1 令和4年疾病分類

順位	ICD-10	疾患名	人数	%
1		筋骨格・結合組織疾患	6	66.7%
	M1999	変形性膝関節症(1)		
	M1992	変形性肘関節症(1)		
	M754	肩インピンジメント(1)		
	M8697	踵骨骨髄炎(1)		
	S541	正中神経断裂(1)		
	E145	糖尿病性足壊疽(1)		
2		新生物	2	22.2%
	D487	背部腫瘍(1)		
	D487	頸部腫瘍(1)		
3		損傷・中毒・外因の影響	1	11.1%
	S7290	尺骨骨折(1)		
計			9	100%

表22-2 平成28年疾病分類

順位	ICD-10	疾患名	人数	%			
1		筋骨格・結合組織疾患	19	82.6%			
	M1999	変形性膝関節症(1)					
	M1991	変形性肩関節症(1)					
	M754	肩インピンジメント(1)					
	M4799	腰椎ヘルニア					
	M4316他	すべり症(1) 腰椎症(3)					
	M201他	外反母趾(2) 蜂窩織炎(3)					
	S460他	腱板断裂(2) 拘縮(1)					
	2				損傷・中毒・外因の影響	4	17.4%
		S			骨折(2)		
S		打撲(2)					
計			23	100%			

令和4年度の退院患者の疾病分類としては、筋骨格・結合組織疾患は6人(66.7%)で平成28年度の19人(82.6%)より減少した。令和4年度は新生物の入院が新たに2人(25.0%)あった。

## 考 察

### 1. 患者数

外来受診者総数については、今回調査は1週間であったので内科・外科・整形外科の3科は1日平均すると172.2人で15%減となり、精神科・皮膚科については1日平均116人で35%増、5科合計ではほとんど変わらなかった。

主要3科の外来患者数減少の要因としては、通院中は同一医師の治療方針のもと治療を受けてもらえるようになったが、より専門的あるいは高度な治療を要する場合は他院への転院となることや特に整形外科では元々疾患によりADLが低いことに加え高齢化のため介護度が上がり介護サービスによる受診時間が制限されること、地域の労働者の減少により手術対象者も減っている事などが考えられる。

### 2. 性別

外来患者の調査では、女性の受診患者数は前回調査と変化が無い。地域的に女性の人口が少ない事が最も大きな原因であると考え。 (あいりん地域における女性人口は令和元年9月30日の西成区の調査で3,729人で、男性は15,216人で全体の19.6%である。) また、当院が日雇労働者や生活困窮者の病院と見られているため女性が少なくなっているといえる。

### 3. 年齢構成

年齢構成については、60歳代と70歳以上の合計では、外来患者は67%と変わらなかったが退院患者は77.7%と増加した。外来患者の統計調査では、70歳以上の患者419人の中に80歳以上が75人、90歳以上も5人含まれており、高齢化が進んでいることを示している。平均年齢も61.2歳から64.4歳と更なる高齢化を認めた。これらの事はあいりん地域の高齢化率49.8%(令和元年9月30日 西成区の調査)の影響が大きい。また、生活保護受給者が増えたことで生活自体が安定し、さらに医療に繋がり通院を継続することで体調管理が行われ長寿となっているためと考える事ができる。

外来患者の女性の平均年齢が若年化したことについては、20歳代や40歳代の受診による影響と考える。20歳代の受診者は西成保健所の結核検診による精査の患者であった。

### 4. 居住地

居住地を前回調査と比較すると、外来患者、退院患者ともホームレスは外来で9%から3.7%、退院で11.3から2.8%と減少し、あいりん地域の居住者が外来で43%から65.8%、退院で32.3%から61.1%と増加している。慣れ親しんだあいりん地域で生活保護を受けながら生活している人が増えていることがうかがえる。

## 5. 医療費支払い方法

生活保護は前回調査とほとんど変わりなかった。あいりん地域に特徴的な日雇保険所持者は認めなかった。また、労災保険適用者も大きく減少した。これは労働者人口がますます減少しているためと考えられた。

外来での依頼患者は、平成 28 年度は 26 人（9%）から令和 4 年度では 1 日平均 12.6 人（5.8%）と減少した。しかし、年間でみると平成 28 年度延べ人数 2,879 人、令和 4 年年度 6,207 人で 215.6%と倍増しており生活困窮による要医療者はまだまだ存在し当院の無料低額診療事業を必要としていることが確認できた。

## 6. 疾病分類

### (1) 内科

今回調査でも、生活習慣病が多く、内訳としては、高血圧症 185 人、糖尿病及び高コレステロール血症が 143 人と外来受診患者総数の約 60.0%を占め、平成 28 年度の（高血圧 45 人、糖尿病及び高コレステロール血症 16 人）66.3%と変わらなかった。平成 28 年度の受診患者一人あたりの疾患数は 3.16 疾患であったが、令和 4 年度は一人当たりの総疾患数も 3.98 疾患と増加している。高齢化により合併している疾患も増加していると言える。

退院調査では、新型コロナウイルス感染症の患者が 35.3%を占め、内科他疾患の病床数の減少の影響が大きかった。

### (2) 外科

胃癌や大腸癌などの悪性疾患が増加している。手術後も抗がん剤治療などをうけながら通院していることが窺える。

### (3) 整形外科

整形外科は前回調査と変わらず、変形性関節症の骨・関節疾患が多く外来では 69.5%で、ついで末梢神経障害性疼痛の患者が多かった。骨折や捻挫などは減少していることもあり高齢化に伴うものと考えられる。

### (4) 精神科

これまで当院の精神科では、覚醒剤精神病、アルコール依存症などの疾患が非常に多くの割合を占めていたが、社会環境の変化などにより減少している。

精神科の疾病分類では不眠症が最も多く、次いで神経症、うつ病となっている。

年齢別では、50 歳代が最も多く 60 歳代、70 歳以上も若い年齢層より一定数あることから、若年時より継続した可能性もあると考えられる。

### (5) 皮膚科

前回同様、皮脂欠乏性湿疹が一番多い。高齢に加え男性患者が多いため皮膚ケアに関心が薄いことが原因として考えられる。

## まとめ

受診患者の背景的因子に関して、この6年間で外来患者の平均年齢は64.4歳と前回(61.2歳)より3.2歳、退院患者の平均年齢も68.7歳で前回(62.4歳)より6.3歳も高齢化した。性別の割合に変化はなかった。居住地はあいりん地域が増加(43%から65.7%)した。医療費の支払い方法においては、生活保護受給者の割合が前回と変わらず1番多く、公的保険は数としては増えているが割合は少ない。労災保険適用者も減少していることから労働者人口は減少し、生活保護受給者が定住し治療を受けていると考えられた。

疾病構造に関して、内科では生活習慣病の合併が多く認められている。このことは生活習慣とともに高齢化の問題でもある。

外科や整形外科では、労働による外傷は前回より減少し、長期の重労働による慢性的な変形性疾患や新生物が多くを占めるようになった。精神科や皮膚科でも、高齢化の影響がみられ、加えて社会生活や生活環境の変化などが疾病構造に影響したと考えられた。

## おわりに

新病院に移転後2年が経過し、予約受診も定着してきた。前回の調査に比べるとあいりん地域に定住し治療を継続している患者が多いことが分かり地域に根差した病院になっていっていることが確認できた。令和4年2月から訪問看護ステーションも稼働し外来から入院、入院から外来と切れ目なく援助できるようにもなった。また、発熱患者の受診や新型コロナウイルス感染症の入院の受け入れやワクチン接種など地域住民の要望に微力ながら対応した。

高齢化や新しい感染症、新しい治療など変化する社会環境に対応しながら、今後も地域に根差し安心して医療が受けられるようサービス向上に努めていかなければならない。